

伊吹山花だより

第65号(令和5年5月)

上野区:ユウスゲと貴重植物を守り育てる会

新緑が目まぶしい5月-皐月-花も続々と

気温の高い状態が続く今シーズン、いろいろな花がほぼ半月早く咲きだし、いつもの時期に行くと既に咲き終わっている花もあります。移り変わる花々を観察できる時期は短い種もあるので、チャンスを逃さないよう幾度も伊吹山へお越しください。



キバナレンリソウ
(黄花の連理草)

ヨーロッパ原産の帰化植物で伊吹山のみで自生し、信長の薬草園伝説を裏付ける種の一つ。小葉が仲良く向き合っているので「連理」、濃黄色の花が和名の由来。花は繖状花序に5~10個つく。



エビネ
(海老根)

偽球莖が連なっている形が海老の背に見えるのが和名の由来。外花被片は紫色、内花被片と唇弁は白色で、繖状花序に開く。

群生の正体未だ知らずと咲き始めキリリした風林縁撫でる



エゾノタチボスマレ
(蝦夷の立壺葎)

北海道に多く生えるのが和名の由来。花弁は淡紫色または白色。距は短く中央に溝があり、托葉が羽状に深裂するのが特徴。



クサボケ
(草木瓜)

20~50cmの落葉低木で、花は葉腋に3~5個束生し、朱赤色の5弁花。果実の形状から木瓜の音読みのモケが転訛し和名に。花言葉朱色に引かれ一目惚れ朝日に更に朱色放ち



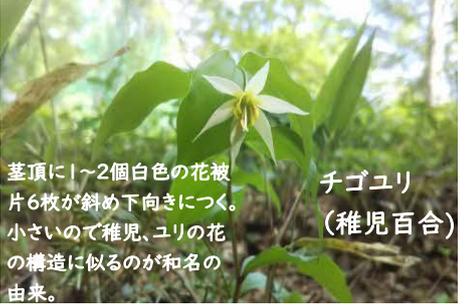
アヤメ
(綾目)

外花被片の網目状の模様の特徴が和名の由来。花は紫色で、葉は2列に並び基部は抱き合って茎を包む。三合目の個体は背が低い。



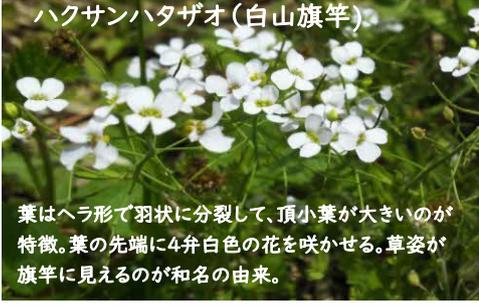
クルマムグラ
(車轆)

牧野富太郎が命名。葉が輪生する形が車軸で群生することを轆と言うのが和名の由来。茎頂に2mm径の小さな花を数個つける。



チゴユリ
(稚見百合)

茎頂に1~2個白色の花被片6枚が斜め下向きにつく。小さいので稚見、ユリの花の構造に似るのが和名の由来。



ハクサンハタザオ(白山旗竿)

葉はへら形で羽状に分裂して、頂小葉が大きいのが特徴。葉の先端に4弁白色の花を咲かせる。草姿が旗竿に見えるのが和名の由来。



ツツナミソウ(立浪草)

花冠が立ち上がり咲く姿を波頭に見立てての和名。下唇に白地に大小の斑紋があり、花序は上に行く程少なくなる。



イブキガラシ
(伊吹芥子)

和名の由来は山に生える芥子の意で伊吹山に生育するので。茎葉直立し、上部の枝分かれた先に黄色の花を多数つける。



シラユキスマレ
(白雪葎)

白雪のような白い花が名の由来。唇弁の紫色の筋がなく真っ白の花を下向きにつける。茎や葉も全体に薄緑色。



ヒメフウロ
(姫風露)

石灰岩地の伊吹山に群生し、花が小さく可愛いことが和名の由来。淡紅色の花弁が5枚あり、花径は7~10mm

本当に手で包みたいヒメフウロ 変わらぬ信頼今年も会えた



フタリシズカ
(二人静)

和名は能の二人静に由来する。花穂の数が定まらないのは、静の亡霊か。花は萼も花弁もなく、白い雄しべは粟粒のように見える。



クサタチバナ
(草橘)

ミカン科の橘の花に似、草なのが和名の由来。こちらは夾竹桃科。茎の上部で枝分かれし、花冠は白色で5裂する。



ホタルカズラ
(蛍蔓)

よく目立つ青紫色の花を蛍に例え、茎がつる状なのが和名の由来。花冠は深く5裂し、中央に白い筋が入り、花の後方に赤みがあるのが特徴。



ウリノキ
(瓜の木)

葉の形がウリに似るのが和名の由来。葉腋から出た集散花序の白い花の花弁は外側に強く巻く。落葉小高木-低木。

4月の植物観察会を行いました。スプリング・エフェメラルがたくさん！

4月16日は曇りがちで風も強く、フデリンドウやアマナは開花してくれませんでした。でも春の妖精、スプリング・エフェメラルとも呼ばれ春に花が咲き夏には葉も枯れて地上部はなくなり休眠する花(カタクリ、スハマソウ、ニリンソウ、ヤマエンゴサク等)やエイザンスミレ、ニオイタチツボスミレ、イブキシミレ(残り花)、タチツボスミレ、ニョイスミレ、ウスバサイシン、ヒトリシズカ、イカリソウ、エンレイソウ、クサボケ、フッキソウ、キジムシロ、ミツバツチグリ、カキドオシ、ハクサンハタザオ、メギ、若葉のヤブレガサなどが見られました。今年は早くもエビネが蕾をつけてました。



次は5月の植物観察会。春から初夏に向かう季節に姿を現す花々は何かな。

5月の植物観察会は、5月21日(日)に開催。例年、この「伊吹山花だより5月号」の表面に掲載した花々や次の花たちも観察できますが、今後の天候の状況によって見られない場合もあるのでご了承願います。申し込みはこのチラシ一番下の電話番号までお願いします。



「らんまん」の牧野富太郎博士命名の伊吹山に自生する植物を少しをご紹介します

NHK朝の連ドラ「らんまん」の主人公のモデル牧野富太郎博士は新種や新品種など1,500種以上の植物を命名したと言われてます。それらの中には豊かな植生を誇った伊吹山に自生する植物も多く、村瀬忠義氏によれば亜種、変種、変形を含めると約100種にもなるそうです。それらのごく一部を紹介します。



伊吹山の魅力 360度の大展望—日本一の琵琶湖、日本アルプス連峰など

伊吹山の魅力を「日本百名山」の著者深田久弥は、①東海道線から目の前にボリュームのある山容で大きく聳えること、②日本武尊伝説など歴史のある山、③伊吹百草などで知られた豊かな植物の山、そして④頂上からの白山や鈴鹿の山々などの眺望の素晴らしさを挙げています。目の前に広がる大きな琵琶湖はもちろん、空気が澄んで晴れた日には遠く白山やアルプスの山々が一望できます。



【お願い】伊吹山ではニホンジカの食害から植物を保護するため獣害防止ネットを設置しています。出入りは自由ですがドアは必ず閉めてください。一晩で甚大な食害が発生してしまいます。



ユウスゲと貴重植物を守り育てる会

会長 高橋滝治郎 TEL 090-3286-8191
副会長 堀江 寛 TEL 0749-58-1323